



おがた まさみ
緒方 正実さん

1957年 あしきたまち めしま う
芦北町女島に生まれる
1978年 たてぐでん しゅぎょうい さい どくりつ
建具店に修業入り。30歳で独立
2007年 みなまたびょうしりょうかん かた べ
水俣病資料館「語り部」になる
2011年 かんきょう にんてい
環境マイスターに認定
2019年 ものづくりマイスター認定

げんざい たてぐでん けいえい かた べ かつどう おこな
現在、建具店を経営しながら、語り部活動を行って
いる。 みなまたしつきのうらざいじゅう
水俣市月浦在住

わたし あしきたまち めしま ちい ぎょそん う おきな すいぎんちゅうどく
私は、芦北町の女島という小さな漁村で生まれました。幼いころは、よだれなどメチル水銀中毒
とおも しょうじょう つういん いま ていきてき つういんちりょう
と思われるいくつかの症状で通院をしていました。今でも定期的に通院治療をしています。

ねん りょうし あみもと そ ふ とつぜんはつびょう きゅうせいぎしょうがた みなまたびょう な
1959年に、漁師で網元だった祖父が突然発病し、急性劇症型の水俣病で亡くなりました。そ
とし う いもうと たいじせい みなまたびょうかんじゃ ちち かぞく さべつ しんばい みなまたびょう しんせい
の年に生まれた妹は胎児性水俣病患者です。父は家族への差別を心配して水俣病の申請をし
ないまま 38歳で亡くなりました。

りょうし いっか わたし かぞく しんせき ふく みなまたびょう にんていかんじゃ めい とうじ もうほつ
漁師一家だった私の家族・親戚を含めて、水俣病の認定患者が20名ほどいます。当時の毛髪
すいぎんりょう けんさけつ かぞくぜんいん たか すうち けんしゅつ いっしょく おなた た もの た
水銀量の検査結果では、家族全員に高い数値が検出されました。一緒に暮らし、同じ食べ物を食べ
ていましたが、自分への差別を心配して「魚は嫌いで食べたことはない。」とウソをついていまし
た。私は自分が幸せに生きていくために水俣病から逃げ続けてきました。

ただ、事実をいくら隠そうとしても逃げ続けることはできず、38歳の時、初めて申請をしました。
そこには娘が私にかけた一言がありました。その一言で、水俣病に対して正面から向かい合う
ことを、そして水俣病と闘うことを決意しました。初めての申請では対象とはなりませんでした。
ここから私の水俣病の闘いが始まりました。異議申立てと行政不服審査請求を繰り返しまし
た。私は、どこの団体にも属さず、一人で闘いました。そして、2006年、被害に遭って50年目に
2,266人目の水俣病患者として、熊本県知事から認定を受けました。

わたし みなまたびょうかいけつ もくてき ねん いの つく つづ
私は、水俣病解決の目的で2003年から「祈りのこけし」を作り続けています。もやい直しの一
かん しみん みんなが うえたどんぐりなどの き からなる「美生の森」の 枝 を使わせてもらっています。
これまで数えきれないほど制作し、多くの方々に渡してきました。

わたし みなまたびょう とお じぶん しょうじき い お で き ごと しょうめん む あ たいせつ
私は、水俣病を通して、「自分に正直に生きて、起きた出来事と正面から向かい合うことの大切
さ」を学びました。水俣病によって失ったことがたくさんありますが、人として生きる上で一番大切
なことを学ぶことができました。

みなまたびょう さべつ ただ ちしき つた つづ おも
水俣病の差別をなくすために「正しい知識」をこれからも伝え続けたいと思います。